

岐阜市政について

岐阜市長 柴橋 正直 様

本日は貴重なお時間を頂きましたので、最近の岐阜市政と今後の市政についてお話をさせていただきます。

最初に「2027年リニアインパクトを見据えて」についてお話をいたします。

私はかねてから「岐阜都市圏」という考え方を示しております。残念ながら「岐阜都市圏」からは人口が流出しています。愛知県への人口流出を防がなければなりません。岐阜市だけでなく、広域での対策が必要と考えています。6市2町による合同企業説明会の初開催や4市1町による消防広域化を運用開始しています。

また、2020年大河ドラマ「麒麟がくる」が放映されます。観光プロモーションで県内市町村と連携を進めてゆきたいと思っております。

岐阜市の中心市街地とは、岐阜都市圏の中心市街地と捉えております。この中心市街地の復活は、必ずやらなければならないと思っています。ぎふメディアコスモスは入場者400万人達成ということで、一定の成果を上げております。

具体的には、金華橋通りを岐阜市に背骨に、と考えております。具体的なお話をさせていただきますと、金華橋通りには、ぎふメディアコスモスがあり、新庁舎も建設中であり、市民会館のあり方も検討に入ったところであります。また、柳ヶ瀬エリアでは、「リノベーションまちづくり」と「高島屋南の再開発事業」の二つの事業を行っております。町が大きく動き出すということを実感してもらえらると思っております。さらにその南側では、民間マンションやビジネスホテルも建設が多々始まっています。岐阜駅周辺における再開発事業計画や岐阜駅東地区市街地再開発事業も始まっています。「高島屋南の再開発事業」の目途が付けば、更なるまちづくりも加速するのではないかと期待しています。

最後に、「本物志向の観光まちづくり」を考えています。2020年は大河ドラマ「麒麟がくる」が始まりますので、チャンスイヤーだと考えています。岐阜市観光ビジョンを策定して、中長期観光戦略により、交流人口増加を狙ってゆきたいと思っております。この機を逃さず、岐阜市の魅力を発信してゆきたいです。具体的には、岐阜県と光秀公ゆかりの県内8市町による協議会を設立して、自治体間で連携をして観光客を誘致してゆきたい。また、岐阜城山上部で石垣の発掘調査をスタートさせました。本物の石垣で岐阜城の価値を高めて、調査自体を観光資源にしてゆきたいと思っております。岐阜公園も民間活力を活用して岐阜公園の再整備を前進してゆきたいと考えております。

最後に「クアオルト健康ウォーキングアワード」の優秀賞を受賞しました。住民の健康増進や交流人口の増加につなげて、観光施策の一環として取り組んでゆきたいと思っております。

以上、ご清聴ありがとうございました。

